

NPO法人社会還元センターグループわ会報

# 情報ギャラリー

## 第36号

情報ギャラリー第36号

発行日 2006年10月27日

編集 グループわ広報部

発行者 郷 肥三

発行元 NPO法人社会還元センター  
グループわ

TEL(078)743-8101 FAX(078)743-3830

Eメール group\_wa@wa-net.jp

ホームページ http://www.wa-net.jp

## 更なる飛躍を目指し活動開始！ グループわ10周年記念事業実行委がスタート 理事 - 加藤 勇治

### 実行委員会発足に当たって

#### 実行委員長 郷 肥三



来年はグループわ設立から丁度10周年の節目の年を迎えます。設立10周年を区切りに、NPO法人グループわの更なる飛躍を期して、10

周年記念事業への取組みを本年5月開始しました。6月から7月にかけて、本部役員を中心とした準備委員会を設置、記念事業の基本構想を練るとともに会員二百数十名にアンケートを実施して記念事業に関する幅広い意見や要望の収集を行ないました。

更にこの取組みを具体化するために8月に実行委員会の編成業に着手し、各期卒業生の中から幅広く適任者の推薦を受け、最終的に32名の方に実行委員をお願いし、漸く多彩で強力な布陣の実行委員会を編成することが出来ました。

9月5日に第1回実行委員会が開催され、10周年記念事業に向けての取組みが本格的にスタートいたしました。10周年記念事業が単なる節目の年の形式的な行事や儀式に終わることなく、10年の節目を機にわが将来にわたって更に前進する重要なステップとなるような“実りある催し”となることを願っています。盛り上げと多くの方の参画を期して「標語の募集」も考えています。実行委員会を中心にわを挙げて取組み、衆智を結集して是非とも成功させたいと存じます。皆様方の絶大なご協力ご支援をお願いします。

### 10周年記念事業実施要綱(要旨)

第1回実行委員会で確認された基本要綱(計画骨子)は次の通りです。

#### 1. 意義・目的

- (1) 設立10周年を区切りにグループわの更なる充実発展を期す。
- (2) 10年のあゆみ、これまでの実績を内外にPRし卒業生・在校生のわ加入を推進する。
- (3) 有効な地域交流行事の実施により関与先、地域コミュニティとの交流を促進する。
- (4) わの今後果たすべき役割、活動のあり方を考える機会とする。

#### 2. 実施時期など

- (1) 平成19年9月1日~2日の2日間とする。(仮案)  
初日は卒業生・在校生が対象。2日目は一般、地域の方々を対象。

第1日目平成19年9月1日(土)  
場所カレッジ内  
午前(10:00-12:00)記念イベント  
午後(13:00-15:00)展示・パフォーマンス

第2日目平成19年9月2日(日)  
場所カレッジ外

終日(10:00-15:00)地域交流事業。

#### 3. 実施上の基本的考え方

- (1) 財政事情を勘案し簡素で目的に合った事業となるよう工夫する。
- (2) 一人でも多くの卒業生・在校生が参加でき、且つ一般市民も参加しやすい事業となるよう配慮する。

#### 4. 実施事業

- (1) 記念イベント  
式典のほか、参加しやすい記念イベントを実施する。(吹奏楽大会、合唱大会、演奏会、講演会など)

#### (2) 記念誌の発行

わ10年のあゆみを編集、作成配布する。

- (3) 市民参加の地域交流事業  
有効な地域交流イベントを企画し記念事業の一環として実施する。

#### (4) 展示・パフォーマンス

わの10年のあゆみや各グループの活動実態を紹介・PRする展示を行うとともに、活動実態をPRし会員相互の交流を深める催しを企画実施する。

#### 実行委員会の組織体制

委員長 郷 肥三(福・9)

副委員長 井上 堅(福・8)

#### 総務・広報部会

加藤勇治(美10) 大西隆史(生8)

岡村健二郎(園7) 小林将悟(生8)

藪口卓也(園10) 飯井冴子(一般)

#### 記念イベント部会

中沢保夫(音9) 上田市夫(生10)

杉野好一(生5) 黒田 宏(国6)

堀内 昭(食6) 西田圭一(生9)

門脇淳子(福2) 永井経子(生3)

辻 郁子(食5) 黒木幸子(音6)

#### 記念誌部会

朝日照夫(国6) 西阪順三(生8)

白岩信義(国7) 高橋孝男(国9)

高木稔雄(国10)

#### 地域交流部会

西隈勝利(生7) 宮城智子(音2)

淡路忠義(福5) 東本敦子(福9)

橋野美子(一般)

#### 展示・パフォーマンス部会

垣尾一士(音4) 松本治司(美8)

五味正昭(福7) 井上 堅(福8)

竹内義治(国9)

(注)上記は部会長は副部会長。

#### 今後の取り組みについて

実行委員会では、10月末までに基本計画検討、年内まで全体計画完了、来年度から本格準備作業開始の方向で取組みを推進する方針です。

### 子どもたちの学習支援活動

# より一層の充実にむけて

理事 - 中沢 保夫

日本の未来を託す子どもたちの教育について、昨今良く論議されています。9月16日に発足した新内閣は政権の重要課題の一つとして「教育の再生」を宣言しました。29日の安倍首相所信表明の骨子は、皆さまご承知の通り「美しい日本」を目指すという言葉から始まりました。

また2016年のオリンピック招致をめざす東京都知事はテレビで「若い人たちに元気を出していただく大きなきっかけとしたい」さらに「日本人が国際人としての立派なマナーをしつかりと身につけることにつなげたい」と語っています。

私たちの足元に目を向けると、地元神戸市で、わずかでも子どもたちや先生のお役に立とうと、控えめにスタートしたグループわの学習支援活動は2年目に入りました。支援者のみなさま方のご努力や関係者のご協力により合計25校(昨年度比7校増)で学習支援が続けられています。

#### (1) 推進委員会発足(8月1日)

これから要請校増が予測されるほか、支援内容が多岐にわたってくる。また子ども登録者側体制の一層の充実に向けて、当委員会をスタートさせました。現在のメンバーは次の12名の方々です。

#### アドバイザー

- K S C 総務課長 藤原 博史
- グループわ 理事長 郷 肥三
- 委員長 中沢 保夫
- 副委員長 井上 堅
- 委員 高橋 孝男 加藤 勇治
- 神林 幹夫 小林 勝
- 土井 清二 長谷川雅江
- 宮崎 芳江 渡辺 寛治

#### (2) 平成18年第2回登録者の集い

(8月22日開催)

郷理事長よりお礼、さらに充実した活動をお願いしたいと挨拶 KSC 藤原課長より激励の挨拶  
今回はじめての試みとして6組に分かれてグループディスカッションを行い、多くの活発な発言がありました。

#### A. 学習支援活動現場でのこと

支援活動の入り方に戸惑いがある  
学習支援者の踏み込む範囲が難しい  
活動後に先生と支援者間で話し合いの場がほしい  
学校側の急な予定変更で困った

#### B. 学習支援活動側(わと登録者)のこと

グループディスカッションのような勉強の機会をもっと準備してほしい  
障害児教育の専門知識が必要  
小学校以外に地域センターなどで活動してはどうか  
など貴重な意見、提案があり、これからの集いの開催にあたって参考にしたいと考えています。

#### 学習支援ボランティアに参加して

一般 - 福家 博子



学習支援ボランティアに参加することになり、学習現場で少しでも役に立てればと思いましたが、子どもたちの無邪気で明るい笑顔に接し、元気をもらっているのは私の方だと実感している。ただ真剣な学習の場で、担任の指導や指示に遅れがちな子どもに付き添って、補助するのは、大変神経の疲れることでもある。

現在、2年生の支援に入っているが、学習習慣が身につけている子どもと、そうでない子どもの差ができてくるので、そっと付き添い算数の操作活動や計算を見守り助言する。国語では漢字の書き順や字形など、助言し見守ることで、美しい文字への関心が生まれ学習への自信と喜びにつながる。

基礎的な学習を身につける時期に、家庭の励ましや応援を望めない子どももたくさんいる。学級の中では、そんな児童こそ学ぶ喜びが大きい。そっと支援することで、勉強が面白いと思ってくれば、学習支援ボランティアの意義がある。

また給食や清掃指導にも参加させてもらっている。担任の先生の負担が少しでも軽くと思っているが、私にとってこの時、全児童とより親しくかわる喜びがあり、楽しい時間である。



第2回学習支援登録者の集い

### 子どもたちの学習支援活動

#### 平成18年度第3回登録者の集い開催のご案内

- 日時 : 平成18年12月5日(火) 13:30~15:30
- 場所 : 神戸市シルバーカレッジ 2F 学習室1~4
- 主な議題 : (1) 研修 : 障害児教育について  
神戸市立福住小学校々長 松本 容子先生
- (2) グループディスカッション  
前回のグループディスカッションをより充実した形で、時間は70分間位に長くしたいと検討中です。

登録者のみならず一般のグループわ 会員のご出席もお願いします。

# 平和の歌声に満場の聴衆が感動

## ローグバレー平和合唱団との交流会

福10-文 芳賀 順子



平和の歌を合唱するローグバレー合唱団のみなさん

8月初旬、アメリカ・オレゴン州アシランド市から、田村秀子さんを代表として38人の混声合唱団、ローグバレー平和合唱団が来日しました。広島原爆記念日に鎮魂の思いを込めて平和公園供養塔前で平和の祈りを歌い、平和の歌を通して日本人達と交流を深めたいと、京都、神戸、広島でコンサートを開催しました。

この合唱団は、80歳から18歳までの幅広い年齢で医学生、弁護士、画家、日本で教鞭をとられた元教師、大学教授、ソーシャルワーカー、禅導師、音楽家などと多彩な分野の人達でした。

唯一人の日本人団員の田村秀子さんは、広島で被爆されて、シカゴ大学で社会福祉を学び、大学病院でソーシャルワーカーを退職後、オレゴン州に移り平和合唱団との出会いがあったそうです。原爆体験記「One Sunny Day」を出版。今も反核、平和について語り続けています。

ローグバレー平和合唱団の指揮者デブ・マーストン氏は、クラシック音楽団シスキューシングアスの指揮者、教会聖歌隊の指揮者としても活躍されています。自ら歌手としても亡きジョン・レノンの作品をこなし、ワンマンショーにも出演するという多彩な人です。

8月2日夜、神戸栄光教会でのコンサートの翌日、神戸市シルバーカレッ

ジでの交流会に来演されたのです。カレッジホールには200人余りの聴衆が集まり日米シニアの交流を深めました。コーロKSC、KSC男声合唱団、銭太鼓、一寸奉仕の南京玉簾、最後にローグバレー平和合唱団は、日本語で「折鶴よ広島の空に」と「Blue Sky」を歌い、会場の大喝采を受けました。

アンコールに応じて指揮者のデブ・マーストン氏は、昨夜のコンサートの後、心のままに作曲した歌を歌いますと、壇上より降りて持ってきたギターを弾きながら切々と歌いだしたのです。合唱団の人達も始めて聴く歌でした。



熱唱するデブ・マーストンさん

\*\*\*\*\*

I'm sorry. I'm sorry. すみません!  
We threw the atomic bomb  
to Hiroshima.

I'm sorry. I'm sorry. ごめんなさい!  
We threw the atomic bomb  
to Nagasaki.  
We're sorry. We're sorry.  
We're very sorry!  
We killed your mother.  
We killed your children.  
I'm sorry. I'm sorry. ごめんなさい!  
I'm sorry. I'm sorry. すみません!  
At the time, I was not born yet.

\*\*\*\*\*

繰り返しこの歌を歌われました。平和合唱団の方々は、ビックリした様子で涙を浮かべている人、静かな声で「この歌を歌う事を知らなかった!」と目を伏せられました。私はガーンと頭を打たれたような感動で胸が一杯になりました。その後「We shall overcome. We are bringing in a time of peace.」をカレッジホール一杯に手を取り合って大合唱に成りました。

グループわ食文グループの手作りのちらし寿司・味噌汁・オードブルの昼食は大好評でした。各テーブルごとの歓談に熱が入りました。私のテーブルで、ご一緒したメリーアン・ジョーンさんはカリフォルニア州の出身。私たちが家族が駐在していたロス郊外のクレアモントにあるポモナ大学の卒業生で、若き日の思い出に話が弾みました。

クリス・ヒンスさんは、ペンシルベニア州出身。この青い地球を守る為に、この青空を未来の子供達に残す為に、平和な世界を作る為に歌で世界を結ぼうと、ローグバレー平和合唱団に入ったそうです。

ロシア、アフリカ、アメリカ、日本で活動を続けて3年になるのです。9.11テロ以来、テロとの戦いが続いている事に、良識あるアメリカ人、私達世界中の人達は心を痛めています。一日も早く平和が戻るように願っているのです。

いま中東で繰り返し続く紛争の傷は、大変深くその回復は難しく長期間かかると思います。善意ある人々が傷ついた女性たち・子どもたちへの愛の手を差し伸べていかねばならないと思いました。

### わ のお店屋さんは完売 しあわせの村まつりで賑わう



賑やかな呼び込みの わ の果物屋さん

「美味しいバナナに、オレンジはいかがですか」店員さん顔負けの呼び込みで、グループ わ 本部の出店「果物屋さん」が大賑わいでした。7月29日夜に開かれたしあわせの村の「第16回村まつり」に協賛して、グループ わ から6つの団体がお店を出してまつりを盛り上げました。

芝生広場の会場ではジャズ演奏やクイズ大会、漫才などの催しのあと、恒例の盆踊り、花火大会があり、大勢の観客で賑わいました。中央緑道の両側には、40数軒の出店が軒を連ね、かき氷、タコ焼き、ジュースなどが飛ぶように売っていました。

グループ わ からは本部の果物屋さんはじめ、絵手紙グループの絵はがき、クッキーの会のケーキ、クッキ、クッキンググループのから揚げの販売をして、いずれも1~2時間で完売する人気ぶり。またロビーの会がバザー、昔あそび研究会がブンブンゴマや紙トンボなどを披露してこども達を喜ばせていました。

### マジックの秘技に喚声

スキルアップ講座に参加して

福9 - 文 千原 美哉子



紐に結び玉をつくるのに苦勞する受講者

朝夕は、肌に秋の気配を感じ、しあわせの村のテニスコートの坂道には、

往く夏をおしむかのように、百日紅が咲いている日の9月8日。シルバーカレッジホールで、インストラクターの門脇淳子さんの指導の下に、レクリエーション講座が開かれ大盛況でした。

いずれもグループ わ の会員で、ボランティア活動に熱心な約40人の人たちが受講していました。講座が始まると、皆さんの目がキラキラと輝いて、童心に返っているようでした。

童謡、昔遊び、マジック等があり、特にマジックは「一度やってみたかった」という声が聞こえてきました。手順を教わるのですが、なかなかうまくゆきません。紐に結び玉を二つ作る手品を見た時には、思わず「オー」。全員がびっくりです。

このあと日頃体験しないような事を教わりました。遊びに使ったロープや紙のおもちゃ等を頂いて帰りました。門脇先生お一人で下準備されたとか、大変なお手間だったと思います。初秋の楽しいひと時でした。

### フルーツフラワーパーク 園内ガイド活動を開始!!

理事 藪口 卓也

7月にフルーツフラワーパークの園内ガイドを募集したところ、14名の参加申し込みがありました。早速、応募者全員が2回の研修のあと、9月から案内ガイドを始めました。

案内ガイドの内容は土、日、祝日に入園ゲート付近で、当日のイベントやフルーツ狩りの案内、ファミリー会員申込みの説明など多岐に渡りますが、来園者からは大変な好評を受けています。

参加者からは、なかなか遣り甲斐のある仕事だとの感想がありました。1日に2人が交代で案内していますが、同園としては3人に増やしたいとの意向で、新しい仲間を募っています。

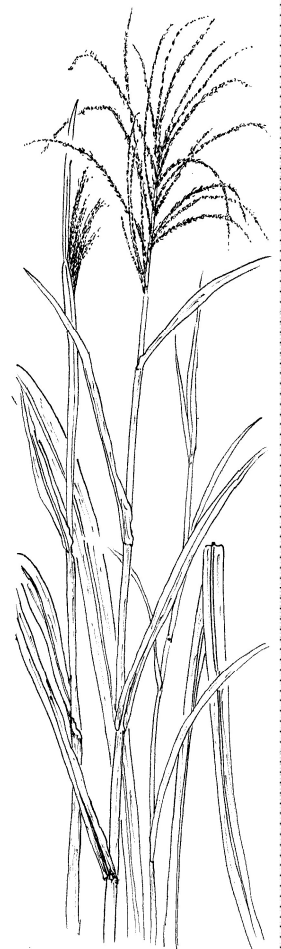
足の便は、少々不便ですが、自然に恵まれた広大な空間の中で、月1回程度活動してみませんか。参加をお待ちしています。12~3月は冬休みです。

### 季節の草花 生8 - 文 久保 知彦 ス ス キ

ススキは昔から人生とは切っても切れない間柄の植物で、旧石器時代の遺跡からも発見されています。それはチガヤなどとともにカヤとして最良の屋根葺き材料として有史以前から使われて来たイネ科の植物だからです。秋の七草としての尾花は花にあたる穂の部分がいいです。「俺は河原の枯れすすき」という船頭小唄や、「幽霊の正体見たり枯れ尾花」など、暗いイメージもありますが、お月見には欠かせない植物です。(今はこの風景もすたれたか?)

昭和20年の春、疎開令がでて、私は石川県の祖母のもとに単身で預けられました。都会とは違って空襲もなく平和な暮らしに見えましたが、学校では勉強よりも畑の世話や堆肥作りなどの作業の記憶のほうが多くあります。

中でも軍馬のための干し草を1貫5百(約5.6kg)作る課題があり、ススキやチガヤを刈り取る作業に追われました。納入の日、とびきり小さな身体の私には一度に運べないので2度に分けて炎天下の長い道を学校まで運びました。祖母は90歳で亡くなるまで、事あるごとにこの話をしていました。



## 初めての国際試合に出場 アジアローンボウルズ選手権

国5 - い 中川 正俊

シルバーカレッジで初めてローンボウルズを教わってから7年余り、夢にも思わなかった第5回アジアローンボウルズ選手権大会(8月12日~18日)出場が実現しました。体力、年齢から辞退も考えましたが、二度とないチャンスであり、後進の指導に役立つと思い出場することにしました。

主催国ブルネイ ダルサラムは熱帯雨林に広がるボルネオ島の北西の一角を占め、日本の三重県ほどの小さな国ですが、豊富な天然資源に恵まれ国民の生活水準は高い。

男子フォアズも8ヶ国で、日本はタイ、香港、マレーシアとの予選グループでした。香港とは0:2、タイとも0:1、マレーシアと0:2で負け、中国との7~8位決定戦では、セットカウント2:0で勝ち、フォアズも7位。

初日の2試合は生まれて始めて日の丸ユニフォームの重圧と緊張の余り、あつという間に終わりました。またグリーンの速さがつかめず、調子も不安定で少しうろたえていた様でした。二日目からは少し落ち着きを取り戻し、フォアズでは強敵マレーシア、タイに善戦し、7-8位決定戦では中国に勝つことが出来ました。

結論としてアジアの壁は厚かった。

特にマレーシア、ブルネイは選手も若くて技術も素晴らしく高度でした。

今回の経験を生かして近い将来、対等に戦うためにはどうすればよいか考えなくてはならないと思う。

## イエス団から感謝状 真愛ホームでの介助活動に

生7 - 福 納 利春

社会福祉法人イエス団が経営する真愛ホームの創立10周年記念の集いが10月3日催され、その席上、グループわが協力団体として感謝状と賞品を頂きました。

イエス団は賀川豊彦先生によって創設され、京都から四国にかけて38の施設を運営されています。神戸は中央区生田川の神戸高齢者総合ケアセンター、真愛ビルがあります。

グループわ(主に中央区会の会員を中心に)では永年にわたり、このビル内にある真愛ホームと、東部高齢者介護支援センターの入居の皆さんを対象に介助活動を続けています。入浴後のケアをはじめ、初詣や花見、夏祭りには車椅子介護などです。

同ホームの10周年記念誌には柳内隆治氏(福祉4期生)が活動内容を投稿されています。感謝状には「ボランティア活動を通して、入居者たちに楽しみ、喜び、生き甲斐を与えてくださり感謝の意を表します」と記されていました。



ローンボウルズ日本選手団(後列左から2人目が筆者)

首都のバンドルスリブガワンのローンボウルズ場は街の中心から車で約20分程の所にあり、周りにはプール、ホッケー場、サッカー場等スポーツ施設があります。ナショナルスタジアムの中にあるローンボウルズグリーンは2面、観客席、ナイター設備もある立派な施設です。

12日に開会式では、アルファベット順に各国国旗を掲げての入場、会場には各国大使も招待されていて、勿論日本大使も列席されていて、我々を激励に來られ多いに感激しました。

私はトリプルズとフォアズに出場し結果はつぎの通りです。男子トリプルズでは8ヶ国が参加、2つの予選グループ(日本は、フィリピン、タイ、香港)結果は、フィリピンとタイにそれぞれセットカウント0:2で負け。香港とは1:1で、タイブレイクのセットを4:5で負け。シンガポールとの7~8位順位決定戦では1:1のタイブレイクの後、エクストラエンドを1:0で取り、結局7位。

## アースパルKOBエフォーラムの開催

『アースパルKOBエ』(代表 生環8期生 松井勝明氏)は、神戸市と協働で「地球温暖化防止の為の行動ネットワーク」として、会員が相互に協力して目的の普及啓発活動を行う団体として立ち上げ、発足以来4年目に入りました。

その間、神戸市環境局の協力も得て、地域社会の環境保全や普及啓発活動に取組み、地味ながら着実に実績を重ねてきました。

今回団体として初の『アースパルKOBエフォーラム』を開催します。基調講演を「地球の明日を考える、地球温暖化時代を生きるとは」をテーマに、「NPO法人 環境文明21」の加藤三郎代表にお願いするとともに、日頃各地域で活躍の会員、関係者を招き、活動紹介やパネルディスカッションを行ないます。一般市民にも「地球温暖化防止」に関心を持ってもらうため、広く参加を呼びかけます。

開催日:平成18年11月11日(土)13:30~17:00

会場:兵庫県民会館10階 会議室「福」

参加費:無料

申込み:氏名、住所、電話またはFAXを下記まで連絡下さい

連絡先:アースパルKOBエ事務局 藤田 祥男

電話 090-9719-2903

FAX 078-811-3151

E-mail [sachifuji@kcc.zaq.ne.jp](mailto:sachifuji@kcc.zaq.ne.jp)

# 夏休みの宿題お助けマン大活躍

しあわせの村、フルーツフラワーパーク、環境未来館で

最高200人の  
参加者で大賑わい

副理事長 小林 将悟  
生7-い 大掛 敏夫

こうべ環境未来館の環境学習講座(エコスクール)「夏休み自由研究お助け隊」が8月20日(日)に開かれました。子ども達に夏休みの自由研究を通じて、環境問題の興味を高めることを目指して企画されました。

今回は事前申込なしの自由参加でしたが、夏休みが終わりに近づいたこともあって、なんと過去最高の201人の親子の参加がありました。会場を5つのブースに分け 天然ガス自動車教室 草木染め教室 手作りおもちゃ教室 昆虫・水生動物・環境問題の相談教室 リサイクル工作教室で、子ども達は興味をもったコーナーで挑戦していました。



手づくりおもちゃの製作に一生懸命の親子たち

なかでも魚や鳥のモビールなどを木工細工で作る「手作りおもちゃ」やペットボトルを主材料にして風車、ビー玉落とし、ピンポンキャッチャーなどの工作「リサイクル工作」は朝から超満員の盛況でした。

また「相談コーナー」では専門の先生が子ども達の日頃疑問に思っている事柄や、虫の名前などを質問、正しい知識を身につけてもらいました。「草木染め」では玉ねぎの皮を染料にハンカチに色々な模様を染め抜いたり「天然ガス自動車」では天然ガスの

特性や地球温暖化防止に役立っている事などを勉強、もの作りの面白さやリサイクルの大切さに気づくきっかけになったようです。

## 昆虫探して標本作ろう

～親子で集まれ自然遊び塾～  
生7-環 松本 恒司



落ち葉から出たカブトムシに大歓声

しあわせの村のピオトープ広場では“自然遊び塾・昆虫を探して標本作ろう”が、8月19日(土)で開催されました。この日はやや台風模様で

したが、それでも100人もの人たちが参加して下さいました。この催しも4度目になりますが、年毎に参加者が増えるのは嬉しい限りです。

なかでもハイライトは周辺の伐採木や、刈り取った草や落ち葉を積み上げた

“落ち葉バンク”をご開帳すると、今年も立派なカブトムシがいました。周辺の山ではバッタやトンボを採った親子たち、シルバーカレッジの裏山ではクワガタムシがいたと大騒ぎです。

午後から県立人と自然の博物館の大谷剛先生のご指導で、出来上がった手作りの標本を子ども達は大事そうに持って帰りました。この中から素敵な昆虫博士が誕生することでしょう。今後は昆虫たちがどんな所に、どんな暮らし方しているか、昆虫と人との関りを学ぶ機会があればと思います。

## 趣向を凝らした名札

独創的な絵の作品

生10-環 角南 貴義

夏休み真っ最中の8月12日(土)両親や祖父母に手を引かれた子どもたちが、フルーツフラワーパークの多目的ホールでグループわが主催する「夏休み工作づくり」に集まりました。5つのブースに分かれ、4時間にわたってそれぞれ趣向を凝らした催しでした。



(名札)

・木の名札・・・  
自然木を材料に、こてを使って名札を作る。

・おりぞめ・・・

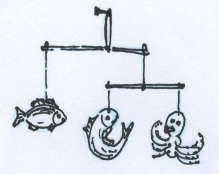
束ねた和紙を染料に浸け、きれいな模様のうちわを作る。

・パタパタ・・・5枚の板とテープを使った不思議な模様が見え隠れする。

・木のオモチャ・・・自分で絵を描き、木を切り、組立てる「登り人形」と「モビール」作り。

・”竹細工”・・・竹を鋸で挽いて、竹下駄とガリガリプロペラ作り。

などのブースも満員盛況で、子どもたちも親と一緒に入れ替わり立ち代り工作づくりに挑戦していました。



(モビール)

真っ赤な顔をして太い竹を鋸で挽いたり、独創的な絵を描いたり、形を作る子どもたち、うしろでハラハラしながら子供を見守るお母さんたちで本当に楽しい時間でした。



思い思いの作品の制作に熱中の親子たち

多くの参加者が自分の成果品を持って「ありがとうございました」と挨拶をしてくれたことで、疲れが吹き飛んでしまった気持ちでした。この日は雨にもかかわらずお助けマンのおかげで、子どもたちと共に大変有意義な時間を過ごすことができ、普段体験できない素晴らしい授業でした。

# 第1回飛び出すエコスクール

## 東灘区でごみ拾いや夢の工作教室

生3-環 中島 洋吉

こうべ環境未来館の環境学習講座(エコスクール)第1回「飛び出すエコスクール」が、9月16日(土)東灘区田中町、コープこうべ生活文化センターで開かれました。生活協働組合コープこうべ、東灘区と共催、環境局東灘事業所の協力で行われました。

こうべ環境未来館では毎月、エコスクールを開催し、自然に親しむことや、ごみと資源の重要性、地球温暖化防止などを理解するための体験型の環境学習を行っています。



道路をきれいに。ごみを拾う東灘児童館の子ども達

こうべ環境未来館は遠隔地にあるため、同館から遠方にある区に出向いて、エコスクールを開催することにしたもので、第1回は最も離れている東灘区で開催しました。当日は朝から小雨が降るあいにくの天候で、婦人会の方8名と渦森台、田中の両児童館の先生と子どもたち40名がクリーン作戦に参加していただきました。

子どもたちはそれぞれの児童館から会場の東灘区役所前の広場までごみを拾いながら集まりました。みんなが拾ってきたごみを、スタッフ、参加者みんなで分別しました。ペットボトル、空き缶、タバコの吸殻、買い物袋などがたくさんありました。

当初の予定を変更して、クリーン作戦を終了し、子どもたちを対象に区役所会議室で、環境局東灘事業所の所長さんより、分かりやすい内容の資源とごみの分別の必要性などの話をして

いただき、続いてコープこうべの環境担当課長さんよりコープこうべで取り組んでいる余った商品をごみにしない工夫、ダンボールを減らす工夫など。また野菜くずで堆肥を作ったり、商品にならないパンなどでメタンガスを発生させて、このメタンガスを車の燃料や、工場のエネルギーに使っていることなどを分かりやすく話してもらいました。

午後からは、会場をコープこうべの生活文化ホールに移して、環境未来館

グループわ東灘区会の会員の指導で工作教室が開かれました。親子や児童館の子ども達を対象に、もっとも身近にあるペットボトルを使った「夢

の昆虫」というテーマのリサイクル工作です。

この工作教室のねらいは、リサイクル、リユースの学習に併せて昆虫をイメージした工作を通して自然の生きものに興味を持ってもらうもので、映像で昆虫について学んだ後、準備された材料を使って、自分たちの自由な発想の昆虫作りに挑戦しました。子どもの発想はすばらしいもので、ごみを食べる昆虫などすばらしい夢の昆虫ができました。

これらの作品は10月2日から2週間、東灘区役所のロビーに展示して、多くの区民の皆さんに見てもらいました。今回のエコスクールは、天候の関係でクリーン作戦の初期の目的は果たせませんでした。児童館子ども達には昆虫作りを通じて、昆虫に興味を持ってもらえたと思います。

# 里山を知り学ぼう

## 親子で集まれ自然遊び塾

生7-環 松本 恒司

去る10月1日、シルバーカレッジの北側の山林で、恒例の「里山塾」を催しました。

ここはグループわの里山クラブの皆さんが八年にも亘って、下草刈りをして、邪魔な木を伐採して整備したところ。お陰で今では、希少種のササユリも200株あまり、キキョウやオミナエシも咲くようになり、良い生態系が出来上がっています。

当日は雨模様にもかかわらず、40人あまりの親子連れが参加してくださいました。まず二班に分かれて林の観察、ツリガネニンジンやシラヤマギクの可憐な花たち、ここらでは珍しいオケラやセンブリも咲いていました。キノコではシロテングタケやツバフウセンタケなどがちらほら。

最後に伐採した小枝や落葉、刈り払った草を積み上げた通称「落ち葉ンク」を拡げてみました。そうしたら勾玉のようなコガネムシやタマムシの幼虫がいました。堆肥の匂いも忘れて子供たちは夢中。

けれども、雨模様为本降りとなり、散策は早めに切り上げ、昼食の後は、ドングリ遊びや木工細工遊び、木の名札作り、それからイタドリや笹の葉で昆虫作り、木の実にリース作りなど盛沢山。でも、こうした素朴な遊びは、森の恵みの余りものを利用した古来よりの日本人の知恵。人と自然の良い付き合いに育てられたもの。そう言うことを今後共伝えたいな、とも思っています。

終了は午後3時。この催しのリーダーの谷口さん、本部の皆さん、助っ人として加わってくださった木工グループの皆さん、いつもながら一生懸命の里山グループの皆さん、ありがとうございました。



# 文化部会

## 手話コーラスで慰問

たるみグループホームの敬老会  
福8 - 文 山下 春美

たるみグループホームからの要請で、9月9日の敬老会に出演しました。私たち手話コーラス同好会では、ホームの皆さんとご家族も一緒にご覧になるとのことでしたので、選曲に悩みました。

そこで皆んで相談して「夕焼け小焼け」で日が暮れた後、空に「見上げてごらんよの星を」と星に願いをこめて、春・夏・秋・冬「四季の歌」とシナリオを考えました。

はじめに、手話で「ごあいさつ」をし、曲の合間に簡単な日常会話を手話

解説（ありがとう、こんにちは、父、母）などしますと、興味を持って一生懸命に手を動かしてくださり、段々と興にのるにつれて、関連する言葉を表現するだけで、答えが返ってくる嬉しい場面もありました。

デイサービスの方々が「ふるさと」を少し練習しはじめているということで、最後に「ふるさと」をみなさんと一緒にしました。

「手」の表現で「うさぎ」が「いぬ」に変身する一どのように「ふるさと」を表現しているか？・・・など解説すると、みなさん納得し、うなずいておられたのが印象的でした。私たちが目指している「共に参加する手話コーラス」に一步一步近づいていることを感じて、ボランティアをする楽しさを見つけています。



車椅子の介護に緊張する わ の会員

先生方は交代で馬になるが大変な重労働です。続いて大きな風船を頭上に持ち上げて運ぶ風船送りをして楽しんだ。2班に分かれての競技であり、子供達も真剣になって頑張った。しかし風船は勝手に横へ飛んでしまう。皆さんには難しい遊びになったようだ。

疲れたので暫く休憩する事になった。私は彼と2人で車椅子で館内を見て回った。会話は無いが、彼の名は「大ちゃん」と判った。「大ちゃん」と呼べば振り向いて笑ってくれた。

その後、みんな揃って昼食です。子供達は一泊の予定で、3時過ぎから先生達子供達をお風呂に入れる。体格のいい子をお風呂に入れるのには先生も大変です。しかし先生方の子供達への愛情と、気配りには頭が下がります。

私たちのボランティア終了の間には、みんな食堂に集まって、児童の代表からお礼の挨拶があった。言葉を探しながら精一杯の挨拶に感動した。私達もこみ上げてくる気持ちを抑えながら、再会を約した挨拶をした。

澄んだ目、時には怯えた表情をする子達ながら精一杯生きている子供達に幸せのくる事を祈りたい。私の貴重なボランティア体験でした。



手話コーラスの手ほどきを受けながら楽しむお年寄り達

# 福祉部会

## 障害者介助に参加して

先生達の愛情と気配りに感激  
美8 - 福 松本 治司

私が初めて体験する障害者介助の日、6月22日は生憎の雨でした。垂水養護学校の小学生25名を乗せた大型バス2台が、しあわせの村の「あおぞら」に到着した。先生方が降ろす荷物の中から児童達が車椅子で降りてきた。小学生である。みんな不安そうな顔で、バスのスロープを車椅子で降りて来た。私たちの紹介もそこそこに、

先生方から「子供達の所へ行ってください」と声が掛かった。

いよいよボランティアの開始である。緊張する一瞬である。不安な気持ちで児童の車椅子のレバーを握った。その子は振り向いて私の顔を見てにこりと笑った。私も笑顔で「こんにちは」と挨拶をした。

今日のスケジュールは野外での遊戯だったが、雨のため急きよ変更された。教室で先生が弾くギターにあわせてみんなで3曲を歌った。次に歩けない児童達を、先生が背中に乗せてハイハイの遊び。



# 環境部会

## 花と緑で選手団迎えよう しあわせの村テニスコートなど 生9 - 環 西隈 勝利

50年ぶりの兵庫国体やのじぎく兵庫大会の熱戦が繰り広げられたしあわせの村では、選手団が気持ちよくプレーが出来るように会場周辺に花一杯で飾り付けました。



花の飾り付けをする環境部会の皆さん

しあわせの村緑地運営課の依頼で、9月13、14の両日、環境部会の七園会、八園会、福祉と花の会、里山グループの4グループ約50名のメンバーが総数4,500鉢の花を植えました。マリーゴールド、コリウス、ポットマムなど8種類の花を記念の森、中央バス停前、テニスコート、運動広場の各花壇に植栽しました。

13日は雨まじりの天候にもかかわらず約1,000鉢を、14日は一転好天気にも恵まれ、残りの3,500鉢を一挙に植えました。さすが日頃植栽等のボランティア活動されたメンバーだけに、段取りも良く、作業の手も早く順調に植付けることが出来ました。



のじぎく兵庫国体承認  
第0423号

皆さん、応援する人々の心を温かくし神戸の良き思い出になってくれればと願っています。

## 絵はがきなど完売 ふれあい広場は大盛況



メッセージボードは激励文でいっぱい  
のじぎく兵庫大会が開かれた10月14日から3日間、総合運動公園前でグループわなどが中心になって「ふれあい広場」が催されました。全国の選手団の皆さんに阪神大震災支援のお礼と、復興した姿を見て頂こうと開かれました。わが担当した休憩所では、大会マスコット“はばたん”を大書したメッセージボード4枚を張り出し、選手への激励文を書いてもらいましたが、用意した3000枚のカードはなくなるほど。売店では神戸の観光地を手書きした絵はがきが人気上々で、発売2日で売り切れました。ステージでも男声合唱団、銭太鼓チームが出演しました。

## 赤司氏に市環境功労賞 環境学習の支援が受賞理由

「KOBEエコ市民フェスタ」が10月21日(土)しあわせの村たんぼの家で開かれ、元グループわ理事長、赤司松美氏ら市環境功労者4人、5団体、1企業が、矢田一郎神戸市長から表彰されました。

赤司氏の受賞理由は、神戸市シルバーカレッジに「ケナフの会」を立上げ里山、ビオトープの保全活動に取り組んだ。NPO法人グループわの代表としても、環境学習・イベントの支援を積極的に取り上げたほか、こうべ環境未来館の責任者として市の環境学習、啓発の場の拠点として運営に尽力したこと等が評価された結果です。



矢田神戸市長から表彰を受ける赤司さん

## グループ紹介

### 銀の匙

食5 - 環 辻 郁子

先日「銀の匙」を本年度の神戸市社会福祉大会で表彰します...という思いがけないお知らせが届きました。私達のささやかなボランティア活動を、このような形で認めて頂き、一同嬉しく思っています。

私達は神出自然教育園に来園する小、中学生や様々なグループの方々と共に、お豆腐やジャム作りをしています。この間は、病院内学級で学ぶ重いハンディをお料理を前に和気藹々の銀の匙グループの皆さんと活動する仲間とこのチームワークのよさが長続きの秘訣かなと思います。これから「食」を通しての多くの方々との出会いを楽しみに歩んでいきます。



心揺さぶられるものがありました。例年開かれている「男の料理教室」でも、男子厨房に入るを目指す方々へのサポートを楽しくやっています。ときにどちらが先生やらと思われるベテランもおられて、どっきりしたりしますが...。8月にはシルバーカレッジに来られたアメリカの口グバレー平和合唱団の方々に、日本

のヘルシー料理を作って大変喜んで頂きました。卒業して5年を迎えます。それぞれ持ち場

を見つけて和気藹々と活動する仲間とこのチームワークのよさが長続きの秘訣かなと思います。これから「食」を通しての多くの方々との出会いを楽しみに歩んでいきます。

# 垂水区会

## 半日に100件の案内も 垂水会の舞子駅観光ガイド 福1 - 垂 坪田 勝治

“他の喜びをわが喜びに...”平成10年3月の卒業が、そのスタートでした。「何をなすべきか」有志あいより、話し合っ始めたのが、天下の景勝地、舞子公園を中心としたクリーン作戦でした。

毎月1回の活動に並行して、明石海峡大橋の建設と駅舎周辺の改造工事が進められ、地元に住む者にも分かりづらい通路ができ、多くの観光客、通行人の問いかけと困惑が目につきました。そうした人々のお役にたつならばと、ガイドを始めました。



1期生たちの舞子駅観光ガイド

四国方面への高速バス乗り場、舞子ピラを中心とした付近の案内は、半日で百件を越す事もありました。なかには待ち合わせの場所が分からない老夫婦と、子供たちを探し回って逢わせたり、就職の面接時間の迫った若者と探した先は、マンションの一室だったりーなどの相談もあり多くの人に喜ばれた。

また「淡路島の松帆温泉の営業時間はわかるか」「釣りの餌はどこで買えばいいのか」「新設の老人施設はどこか」などの難問にもみんな親切にガイドしていました。淡路島に帰るといふ若者からは「本当にお金を貰ってないのか」と私たちのボランティア活動を不思議そうな質問などもありました。

舞子駅のガイドは気象警報が出ない限り、雨の日も風の日も休まずに続けられ、すでに8年を経過しました。1期生から10期生までの47名が11班に編成して、土、日曜日、祝日、の午前10時～12時 毎週活躍しております。

# 須磨区会

## 真夏の須磨海岸の清掃 須磨区会の継続活動 国2 - 須 浦上 俊樹



汗だくになって須磨海水浴場の清掃

須磨区会では年間を通じて次のような活動を継続して実施しています。須磨海水浴場の清掃作業 特別養護老人ホーム神港園での入浴後のケア 神戸大学での老人看護学演習の協力 特別養護老人ホーム3箇所での花見や遠足などの付き添いーを行っています。

なかでも須磨海水浴場の清掃作業は、大阪湾沿岸で唯一残っている海水浴場なので、美しい環境を保つために、地元に住む私たちが少しでもお役に立ちたいと、平成11年から始めたものです。

最盛期の7～8月は毎週月曜日、4～6・9～11月は毎月末、午前8時半に集合して、赤灯台の場所から300m四方、海岸に残されたゴミを拾い集める作業を約1時間、汗だくに行なっています。海水浴客のマナーは年々良くなって、ゴミの量も減っています。最近は夜間に花火や飲酒のためにやってくる人が増え、花火の燃え殻やタバコ・ビール缶などが目立つようになりました。

毎回、10名から15名の会員が参加、真夏の暑さの下での作業ですが、途中一服して見渡せば、目前には美しい砂浜、背後には緑の須磨アルプスを眺めることができます。作業終了後に飲む冷えたお茶の味はまた格別です。

# 長田区会

## 1年が過ぎたパン販売 在校生の皆さんにも好評 美8 - 長 松本 治司

シルバーカレッジロビーに私達のパン販売コーナーがあります。毎週火、金曜日の2回、学生さん達にパンを販売しています。「パンはいかがですか...」学生さん達に声をかけます。長田区会がそんなボランティア活動をはじめて9月で1年が過ぎました。

NPO法人「中央むつみ会」が障害者の就労事業として、はじめたパンの販売店「ふらわぁぼえむ」が新長田に

あります。私達はその販売店からシルバーカレッジまで車でパンを運搬して学生さんに販売しています。最初は無関心だった学生さんも「今日はどんなパンがあるの?」「このパンは美味いよ」そんな声を掛けながら集まってきました。



「パンはいかが」大声で呼びかけるパン屋さん

「ふらわぁぼえむ」では朝早くから7カ所の販売店へパンを持って出かけます。障害を持つ若い人たちが不自由な手で、足を使って頑張っています。また難しい人間関係の中で精一杯働いている姿には感動します。

シルバーカレッジでは、カリキュラムの関係で、登校する生徒が少ない日があります。そんな日にはパンが売れ残ります。彼達はさらに大きな声で「パンを買ってください」と呼びかけて少しでも多く売ろうと頑張っています。でも、逆に時間内に完売できた時には、思わず「万歳」の声が出ます。

ボランティアは精神的にも、肉体的にも確かに疲れます。しかし、共に悲

しみ、喜び、そして感動する。私はその瞬間が大好きです。そんな事を考えるとボランティアは自分の為かも知れません。

また明日もパンが完売できる事を祈ります。

# 西区会

## 会員相互扶助制度がスタート トップを切って西区会が実施 生9-西 西田 圭一

グループ わ が永年の懸案であった会員相互扶助制度の先陣を切って西区会が、9月1日からスタートさせました。

平成17年にグループ わ の本部と相互扶助制度について打ち合わせたのが始まりで、この制度の概要を西区だよりでPRしました。去る2月には会員の皆さんのアンケートをとり、その結果を踏まえて、制度を判りやすくするための実施内容と決まりを作成し、アンケートで支援者OKと答えた44名に支援作業登録書に登録して頂きました。

西区会相互扶助制度の実施概要を作成、全会員に配布して9月1日から同制度をはじめました。同19日には事務局に第1号の利用者から学習相談・指導(パソコン等)の支援申請があり、支援登録者から該当者を選んで2日後、パソコン指導が行なわれました。

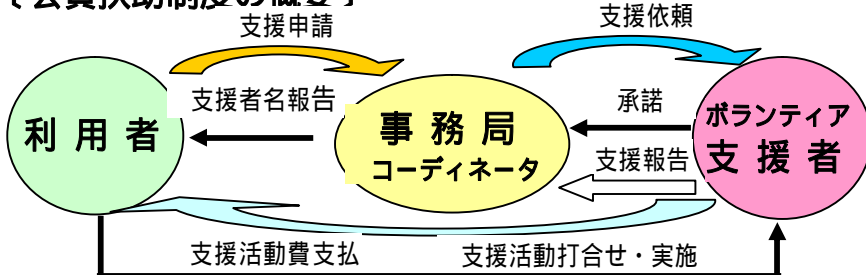
この制度は会員が介護保険の対象になるまでの間に、暮らしの様々な分野で困った時、会員同士が助け合うシステムです。西区会には居住実態と支援活動の距離を考えて、4つのブロック(押部谷、西神ニュータウン南部、西神東部・西神南、池上・伊川谷・学園)に区分しました。

原則としてブロック内の登録会員が支援するものとするが、必要な時は事務局で調整する。支援活動を承諾した会員は、利用者と打合せ(日時、場所、作業内容など)を行なった上で、支援活動を実施する。活動に必要な資材、用具などは利用者が準備する。支援活動で問題が発生した時は、原則として当事者間で解決する。

- なお支援作業内容は次の通りです。
- マイカーによる搬送(病院、買物、墓参、物品配送など)
- 買物、諸届けの代行
- 庭の手入れ(花壇、草引きなど)
- 日曜大工、ペンキ塗り、水道修理、軽微な電気修理
- 屋内清掃
- 屋外清掃、洗車
- 犬の散歩
- 散歩のお供
- 食事作り 田畑の農作業
- 代筆、パソコンの書類作成など
- 子どもの送迎
- 話し相手
- 学習相談・指導(パソコンなど)
- 本、新聞の代読
- その他

登録されている作業内容は「話し相手」が圧倒的に多いのです。制度を満足させたばかりなので、登録者数や作

### 〔会員扶助制度の概要〕



事務局コーディネーターには前会長の三島隆夫氏が担当、支援活動費は一人1回(約2時間以内)当り500円と活動実費(交通費、ガソリン代など)を利用者が負担します。支援作業の内容は特殊な技術を要するのではなく、誰もが普通に行なっている日常作業に限っています。

業内容が偏りすぎるなど不備な点も多々ありますが、順次改善したいと思えます。

また他の区会でも相互扶助制度を早く実施して頂き、グループ わ の全会員が利用できるような制度になるよう切に願っております。

# 兵庫区会

## 兵庫区会も相互扶助の準備 音2-兵 宮城 智子

兵庫パンジーの会では去る8月に会員66名に「会員相互の助け合いネットワーク」のアンケートを出しました。昨年からの懸案で、一度アンケートをしましたが、中身すら決まらず、今回のアンケートにこぎつけました。

結果は55名から回答、うち50名が何らかの支援活動をしてほしい、5名は扶助が出来ないとの回答です。10月の定例会でこのアンケート結果を検討、連絡網については目途が付き、メールでの連絡が24名、FAX連絡23名、残りは電話連絡です。相互扶助について、実施時期を何時からにするか、また利用者からのお礼をいくにするかなど細部を決める必要があります。

# 東灘区会

## 環境に優しい天然ガスを勉強 国7-東 白岩 信義

東灘区会の秋のバス旅行は10月17日(火)大阪ガスの泉北ガス科学館に出かけました。藤井潤子さん(音5)のお世話で実現したもので、会員の半数36名とグループ わ から郷理事長も特別参加して頂きました。



ガス科学館の見学に訪れた東灘区会々員 午前10時、東灘区役所前を貸し切りバスで出発、高石市の大阪ガス泉北製造所内のガス科学館を見学しました。

世界の6カ国からタンカーで運ばれて来たマイナス160度の液化天然ガスを海水で気化して一般家庭に供給する仕組みを勉強しました。

大阪ガスでは泉北と姫路の工場から環境に優しい天然ガスを製造、近畿2府4県680万世帯にガスを供給しています。館内で色々な実験装置や工場内

# 編集後記

「せっかくグループわに加入したのに、活動する場がない」という声をよく耳にします。情報ぎやらりーでは今回初めての試みの付録「グループわ 部会活動一覧表」を発行しました。本部直轄のグループはじめ福祉、国際、環境、文化、いきがいの5部会に所属しているボランティアグループを紹介しています。

福祉、国際、環境の部会はカレッジのコース別の卒業生が中心になって活動しています。文化、いきがい部会は色々の分野の趣味を活かしたグループが多く、クラブ活動の延長で、卒業後も同じ仲間活躍されています。

筆者もこうべ環境未来館のコーディネーターとして、見学に訪れる小学生、婦人会などの案内をしています。公共施設の管理運営だけに雨や風でも休むことはできません。それだけに責任も重いのです。ボランティアとは人と人との心の触れ合いが大切で、その共感と感動は何ものにも変えがたい経験です。いまからでもボランティア仲間に加わりませんか。(J・N)

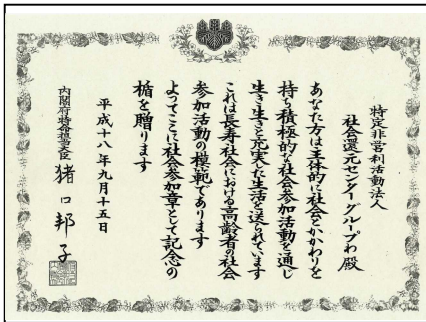
## グループわが受賞

### エイジレス・ライフ実践団体

平成18年度「エイジレス・ライフ(年齢を感じさせない生活)実践者及び社会参加活動事例」に、特定非営利活動法人グループわが選ばれました。

内閣府では高齢社会対策の一環として、全国都道府県にエイジレス・ライフ実践者や団体の推薦を依頼、本年度は実践者101件、社会参加活動事例62件の推薦がありました。内閣府選考委員会で審査、近畿地区でグループわなど3団体が選ばれたものです。

受賞内容は阪神淡路大震災のボランティア、学習支援、環境保全などの活動が認められました。



## アンケート調査にご協力を ボランティアの意識調査

今回、情報ぎやらりー36号と一緒に「グループわ 会員のボランティア活動に関する意識調査」のためのアンケート用紙を同封しております。

この調査は(財)神戸都市問題研究所とグループわが「ソーシャルキャピタル協働政策研究会」の研究テーマの一環として、ボランティア団体であるグループわの全会員を対象に、ボランティア活動についての意識調査を行うものです。調査の結果は、「これからの神戸づくり」の基本となる「ソーシャルキャピタル」(社会的つながりと、そこから生まれる規範・信頼感)を具体化するための基礎資料になります。

地域の安全・安心・福祉・環境などの様々な課題の解決に向けて市民が助け合っていくためには、人と人とのつながりが大切な基盤となります。その具体例としての1,000人を越える会員対象の意識・実情の調査はわとしても興味深いものになります。皆様方のご協力をお願いします。

## 「阪田みゆきピアノリサイタル」のご案内

混声合唱団コー口KSCが発足して間もない平成9年10月に、ピアニストとして阪田みゆきさんをお迎えいたしました。爾来9年あまり、私達は阪田さんの素晴らしい伴奏に助けられ、優しい練習の指導を受けながら、合唱を続けて参りました。

「夢コンサート」や懇親会などでは見事なピアノソロを聞かせて頂きました。演奏を聞くたびに、この演奏をもっと多くの人に是非聞いてほしいと思っておりました。

このたび、下記のような内容でリサイタルを実施することになりましたのでご案内いたします。



日時	平成19年3月30日(金)午後6時開演
場所	新長田ピフレホール
演奏曲目	シューベルト：即興曲 OP 90 - 2~4 リスト：泉のほとり、ため息、ラ・カンパネラ ショパン：マズルカ 5~7、ノクターン 2、 5、スケルツォ 2 スクリアピン：ソナタ 4
会費	1,000円

客席数の都合もありますので、ご参加戴ける方は前もってご連絡ください。

連絡先 芝野 公男 (Tel. Fax 781-8612)

梶谷 道子 (Tel. Fax 791-4172)

コー口KSC「阪田みゆきピアノリサイタル」実行委員会